

【高齢者に対するケアについて】

- 高齢者の生活を支えるために、介護、医療などの専門的なケアに加えて、見守り、生活サポートなど家族的ケアが重要。高齢者住宅では、LSA的人材が家族的なケアを担い、外部サービスにつなぐことができる。
- 神戸市では、シルバーハウジングの入居者に対し、配食、巡回相談、手続代行等のサービスを行う介護機能強化モデル事業を実施。自立・軽度者の介護予防、中重度要介護者の在宅生活支援に効果を発揮。
- しっかりしたコミュニティは、LSA的な役割を担うことができる。
- 共同住宅に受付カウンターが設置されることが多くなったが、高齢化がすすめばデイサービスや食事サービスの施設も設置されるようになっていく可能性がある。
- 住宅内で見守りを実現していくためには、水場を交流空間とすることが重要。
- 公営住宅の入居者同士で見守りが行われるよう、多様な世代が交流して暮らすソーシャルミックスが必要。
- 緊急通報について、重要なのは機械をどこに付けるかではなく、通報先をどこにするかということ。

【孤独死防止対策について】

- 高齢者の孤独死への対策が必要。緊急通報装置の設置等の対策を講じるべき。
- 近隣関係の構築が重要であり、住宅施策としても対応が必要ではないか。
- 独居老人が在宅で亡くなることは避けられないにしても、尊厳を損なう死後長期間発見されない死を減らすことを目指すべき。

【住宅内の事故対策について】

- 住宅における事故防止対策は重要である。
- 住宅内の事故死は浴室で起こるものが多い。脱衣室の寒さによる心筋梗塞が原因として多く、暖房設備の設置等も必要。

【その他】

- 予算のみならず人手も考えて高齢者対策を検討すべき。
- 高齢者住宅について、障害が発生した場合の住まいとしての位置づけの明確化、外部サービス体系の確立、施設ではなく高齢者住宅を増やす方針を打ち出すべき。